ＪＡ滋賀蒲生版

麦作情報No.5（ふくさやか）

令和７年４月１日
東近江農業農村振興事務所農産普及課
（東近江農業普及指導センター）

赤かび病防除と実肥施用について
～「ふくさやか」の防除～

1　生育状況と赤かび病防除

今年産麦は播種後、気温が平年並に推移し、降雨が比較的少なかったため順調に生育していましたが、２月の降雪により生育はやや緩慢になっています。そのため、出穂期・開花期は平年並みになると予想されます。

赤かび病の防除効果を高めるため、遅れずに適期（開花始め～開花期）に防除を実施しましょう。

◎赤かび病の防除時期の目安

品種	出穂期予想	１回目 開花始め～開花期	２回目
ふくさやか	４月10日頃～	４月17日頃～	注意報や多発が予想される場合

＜注意点＞

・開花した時が最も赤かび病にかかりやすいため、**開花始め（ほ場内の穂の10%が開花）**の薬剤散布により高い効果を期待できます。
・**播種時期や今後の気温の経過により出穂期から開花期までの日数が変わることから、ほ場の生育状況を確認し防除を実施してください。**
・薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は追加防除が必要となりますので、関係機関等からの情報にご注意ください。

2　実肥施用について

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。実需者の求める品質評価基準を満たすため、実肥を施用しましょう。なお、基肥-穂肥体系では実肥は不要です。

品種	窒素施用量(N kg/10a)	施用時期と施用量の考え方
「ふくさやか」	４	・出穂１０日後に施用する。 ・穂数が少ない(300本/㎡以下)場合は、2～3Nkg/10aに減らす。